

授業概要

メディアと言えば、かつては新聞や雑誌、ラジオやテレビといった「四大メディア」が主流であった。「四大メディア」は、特定の情報源から不特定多数の人々に大量の情報を発信する一方通行の情報の流れが特徴である。しかし、2000年以降、この構図が劇的に変化した。現在、「メディア」は、インターネットを利用して個人が情報を発信し、ユーザー同士のコミュニケーションにより情報が拡散していく「ソーシャルメディア」へと移行している。「ソーシャルメディア」は、個人が発信した情報が、インターネット上の不特定多数の人に共有され、拡散していくだけでなく、情報を受け取った受信者の誰もが情報の発信者になりうるという双方向の情報の流れが特徴である。こうした内容を、様々な角度から説明していく。

授業計画

第 1 回	導入（情報、メディアの定義等）
第 2 回	メディアの発展（情報端末を含む）
第 3 回	個人情報の重要性
第 4 回	個人情報の保護 プライバシー侵害、名誉棄損
第 5 回	情報の信頼性（1）情報検索テクニック
第 6 回	情報の信頼性（2）フェイクニュース
第 7 回	知的財産権について
第 8 回	インターネットと教育（1）メディアを活用した教育の歴史
第 9 回	インターネットと教育（2）いじめ、有害情報
第 10 回	インターネットと教育（3）ネチケット
第 11 回	メディアとストレス（1）情報化と心の問題
第 12 回	メディアとストレス（2）ネット依存（携帯・スマホ依存）
第 13 回	メディアと犯罪（1）不正アクセス、サイバー犯罪
第 14 回	メディアと犯罪（2） ネット詐欺、違法物の販売
第 15 回	まとめ
第 16 回	定期試験

到達目標

- ・関連する専門用語、キーワードを理解し、説明できる。
- ・メディアリテラシー（インターネットリテラシー）を身につける。
- ・メディアの内容を鵜呑みにするのではなく、自ら情報を収集し、信頼できる情報か確認できる。

履修上の注意

- ・出席状況の基準を満たさない場合は定期試験の受験資格を失う。
- ・遅刻厳禁。講義開始から 30 分を超える遅刻は、欠席扱いとみなします。
- ・講義は、パソコン教室を予定しているため飲食厳禁。ペットボトルなども鞆にしまうこと。また教員からの指示がない場合のインターネットの使用は厳禁とする。
- ・不要な私語の禁止。受講態度の悪い学生には、退学を求めます。

予習復習

予習：授業計画をヒントに、教科書や参考書、インターネットで関連情報を調べてくことが望ましい。
 復習：講義中に指摘したポイントを中心にノートをまとめること。

評価方法

授業中の平常点（意欲、関心、授業態度 20%）と、試験（筆記 80%）によって評価する。

テキスト

- ・教科書名：『インターネットの光と影—被害者・加害者にならないための情報倫理入門（第6版）』
- ・著者名：情報教育学研究会（編）・情報倫理教育研究グループ（編集）
- ・出版社名：北大路書房
- ・出版年：2018年
- ・参考書：『クローズアップメディア』浮谷秀一・大坊郁夫（編） 2015年 福村出版
 『クローズアップ学校』藤田主一・浮谷秀一（編） 2015年 福村出版